

## 平成30年度第2回FD・SD研修会

「高大連携教育フォーラム～未来の教育をかたちづくる高大地域連携～」参加報告

日 時：平成30年8月4日（土）13：30～17：00

講 師：基調講演、倉部 史記 氏（NPO法人 NEWVERY 理事）

シンポジスト、倉部 史記 氏

青木 隆 氏（金沢工業大学 教授）

北村 幸恵 氏（石川県立松任高等学校 校長）

古屋 孝 氏（高松機械工業株式会社 執行役員 総務人事部 部長）

参加者数：98人（大学教員29人、短大教員20人、職員10人、一般30人、遊学館高校9人）

金城大学・金城大学短期大学部共催の高大連携教育フォーラム（合同FD・SD研修会）を開催した。目的として、高大接続教育や大学の入学前教育が注目されているが、教育の現状について、高等学校教育あるいは大学教育など、一側面のみから論ずることは難しいと考えられる。また、現実的に高等学校、短期大学、大学が、それぞれの立場でどのような課題に直面しているかは不明確で、その課題への取り組みも手探りであり、生徒・学生にとって最終的な目標である就職先の企業においても同様に、新人教育において多くの課題を抱えている。

そこで、高等学校、短期大学、大学、企業が直面している課題や工夫されている取り組みなどの情報を共有し、今後の円滑な生徒・学生教育へ繋がりたいと考え、高大連携教育フォーラム（合同FD・SD）を企画した。

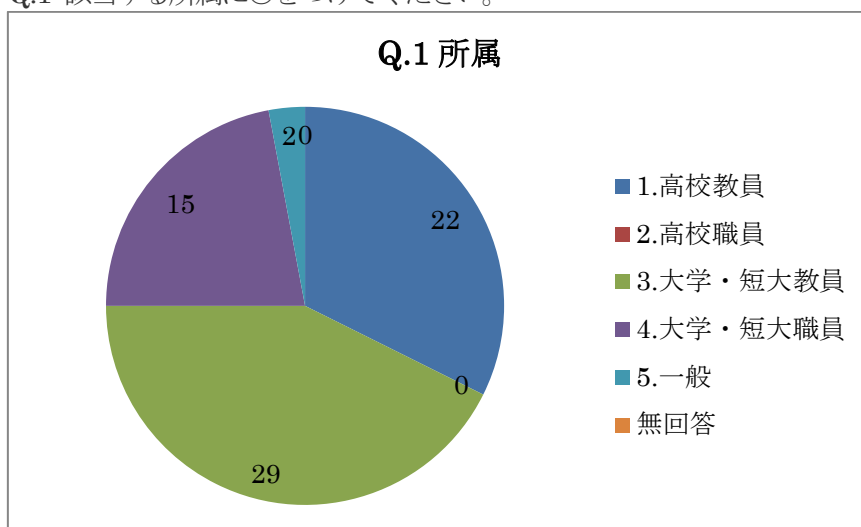
高大連携教育フォーラム～未来の教育をかたちづくる高大地域連携～」と題し、基調講演として「未来に向けた高大接続のあり方と、現場の課題」と題し、高大接続の事例などをもとに高校及び大学が抱えている課題について入試面のみならず教育の質の面から講演いただいた。

シンポジウムでは、「若者が社会で輝くために、私たちはどんな課題を解決すべき」と題し、3人のシンポジストの方々から高校・大学・企業の立場から、それぞれ取り組んでいる教育改革や企業内での社員教育について説明いただいた。取組報告後、倉部氏を交え議論を交わし会場内からも多くの質問が飛び交った。

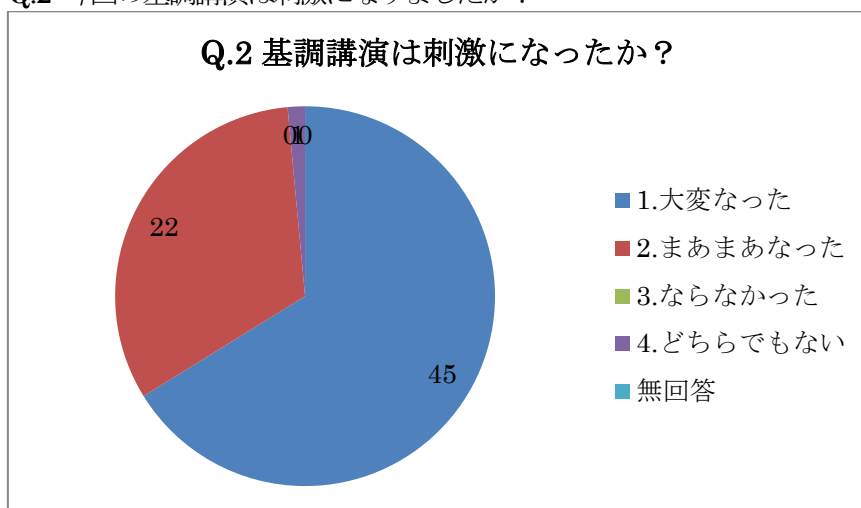


・高大連携教育フォーラム「未来の教育をかたちづくる高大地域連携」(アンケート集計結果)

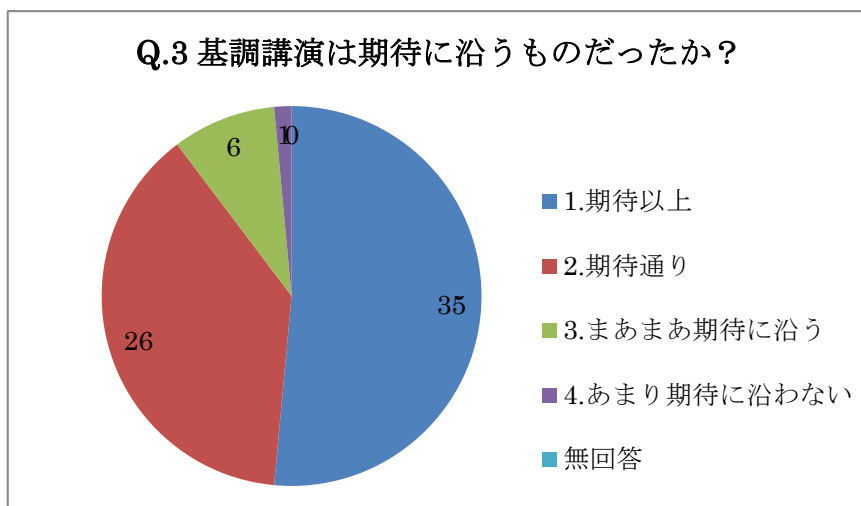
Q.1 該当する所属に○をつけてください。



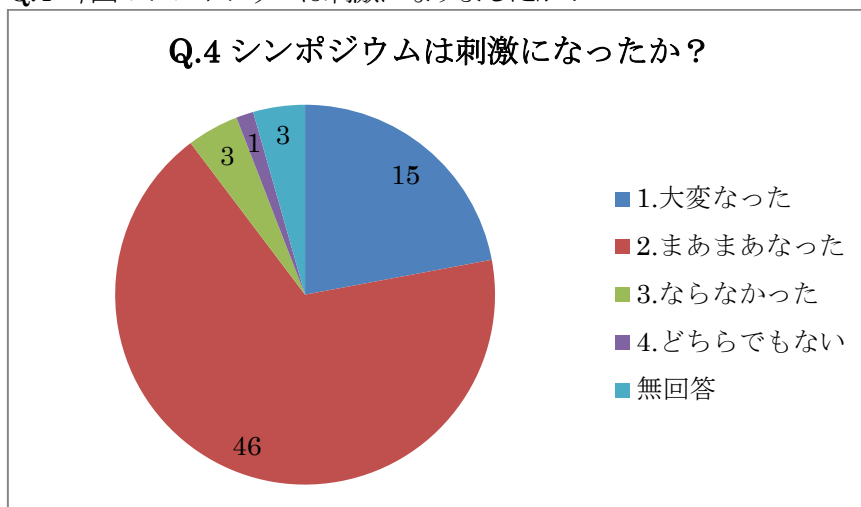
Q.2 今回の基調講演は刺激になりましたか?



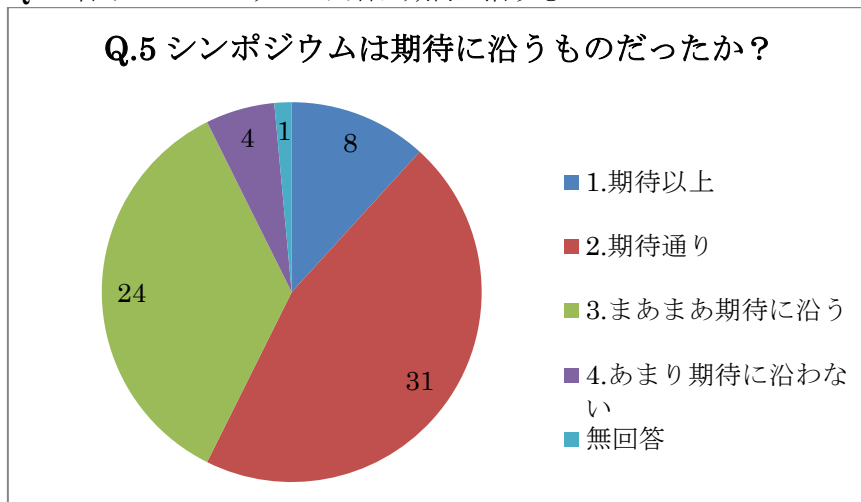
Q.3 今回の基調講演の内容は期待に沿うものでしたか?



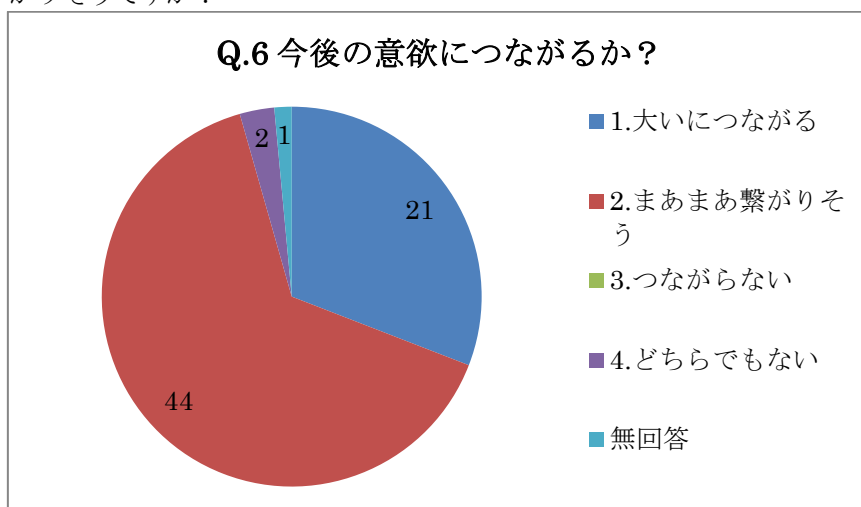
Q.4 今回のシンポジウムは刺激になりましたか？



Q.5 今回のシンポジウムの内容は期待に沿うものでしたか？



Q.6 今回のフォーラムでの学びは、ご自身の今後の授業改善または教育改革に取り組む意欲に繋がりますか？



Q.7 今回のフォーラムに参加しての感想などをご自由にお書きください。

- やらなければならないことはたくさんあると理解した。
- 古屋さんのように企業の方のお話を聞けるのは貴重だ。倉部さんのお話は、また聞きたい。本も読んでみたい。
- 学びに対する信頼感→授業がしやすい（教員への信頼）→問題行動が少なくなる、この部分が今後の授業へのモチベーションになった。
- 高・大・企業の連携の中で、方向性を考えたいと感じた。
- 大変刺激を受けました。高校の担任として進路指導を行っていますが、1つのポイント（地元であるとかオープンキャンパスに行ったとか）だけで志望校を決めていく危うさを感じていました。高大連携、そしてその先の社会人としての在り方までを考えるキャリア教育にずっと関心を持っていました。現在3年生の担任をしています。目の前の生徒に「点」ではなく、「その先」をイメージできるような面談をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- たくさんのヒントをいただきました。役立てたいと思います。
- 日頃の悩みを共有でき、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- 問題解決力が向上するような初年次教育を授業で実践したい。
- 基調講演が非常に面白かった。資格取得、就職率100%をアピールするだけでなく、大学4年間の授業スタイルを高校生に知ってもらうことも大切だと感じた。
- 松任高校での自習時間の向上については参考になった。この場に来てこれをこなすと何ができるようになるのかを明確に学生に伝えるとともに、学びの習慣を積み上げながら進路づくりをしていくことの重要性を感じた。
- 時代背景や環境のグローバル化によるYES. NO. の解答ではなく、独自の思考を答えさせる状況への対応。教育組織、人事育成、役割のリストラクチャリングをしなければならない。
- シンポジスト同士の議論、やりとりも見なかった。
- シンポジウムでは、パネラー同士のディスカッションを期待したい。そのために時間の決めごとをしっかりすることが大事だと思います。大学、高校と連携することを考えるフォーラムとしては、実績として連携している企業を招いた方がよいかと思います。
- それぞれのシンポジストからの報告で課題が改めて見えてきた。
- 前回同様、実りのある話を聞くことができたが、職場では理想論として片付けられるむなしさを早くも感じています。
- 今日のフォーラムでとても心に残ったことは、大切なことは「人生のコンパス」であり、進路選びではなく、進路づくりが大切になってくるということです。数ある職業の選択肢の中から「これになりたい」という声でなく、その生徒の個性から「こういうことがしたい」という声を引き出すような進路指導をする必要があると思いました。ありがとうございました。
- 昨年みたいにグループでの活動がもっとあっても良いかと思いました。企業、大学、高校の教員の方々ともっと触れ合ってみたかったです。
- 人の一生を見据えて生涯学習の一環として、現時点で各々の生徒に何が必要で何ができるかを生徒と一緒に考えていきたいと思いました。
- 学びは問から始まると思います。今日はたかさんの問をいただいたと思います。これらを持ち帰って問を共有することで学びの輪を広げたいと思います。ありがとうございました。
- 特に倉部先生の基調講演が大変興味深い内容でした。シンポジウムは一定のテーマでの話し合いがあればよかったです。
- 今の高大連携の最もよい形が聞けたので参考になりました。
- 生徒にとっても組織にとっても有意義でプラスになる接続のあり方について考える機会になった。

- 「大学の学びは大学で完結するものではない」の一言があったが、それは「高校の学びは高校で完結するものではない」に置き換えることができる。中学生の今と大学や企業の今をもとに学び、未来の教育を考えていきたい。まずは、学びの動機の確認、そして伸ばす技術のブラッシュアップからだろう。

Q.8今後、どのような内容の教育フォーラムまたは研修会を望まれますか？とりあげてほしい内容・テーマ等、フォーラムや研修会開催に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- 参加者名簿が当日もらえるとよい。名札で所属がわかるようにしてほしい。今後、大学、地域として具体的に連携して企画できるようになりたい。
- "できることを増やす"大切なことだと思いました。
- 地元大学関係者が一同に集まるフォーラムを企画してほしい。（テーマは高大連携で）
- 大学教員の成長が大学の存続につながっていることが意識できるようなものを。また、上層部の意識改革ができるようなものを。
- グローバル社会に対応する方法の1つとして高校、大学、大学院の外国の留学生と日本人生徒の交流（一過性のお祭りではなく）の機会を設ける。
- 石川県の地域的な特性を考慮した「進路づくり」に高、大、社が連携して取り組む研修会を希望します。どの分野で人が足りないのかを共有し、そのために育成する人材を学校、社会の垣根をこえて取り組む場がほしい。
- 今回、倉部さんのお話を聞いて、自分が抱いていた高大接続が良い意味で崩された。それは活躍されているフィールドが広いからではないかと考えます。よって、次回呼ばれる方は、そのような多岐にわたる活躍をされている方を希望します。
- AIを活用した教材を用いた授業を組み立てる研修会があれば嬉しいかと思います。
- 高大連携でうまく行っているケースの、より具体的な実践報告（映像など）があればいいですね。
- 高大共創のその後の進行性について。
- 参加者同士のコミュニケーションもフォーラムの中では重要な要素。会場の設定も大きな意味があると思いました。
- 学生と一緒に参加・討議しやすい内容・形式。金沢星稜大学で昨年開催した学生FDサミットや金沢学生のまち市民交流館の諸活動の一部が参考になるかと思います。あるいは、金沢大学で多数の開催を重ねているe教育サロンの開催内容もヒントになるかと思います。（他県には他に色々ありますが、石川のものに限定しました。）